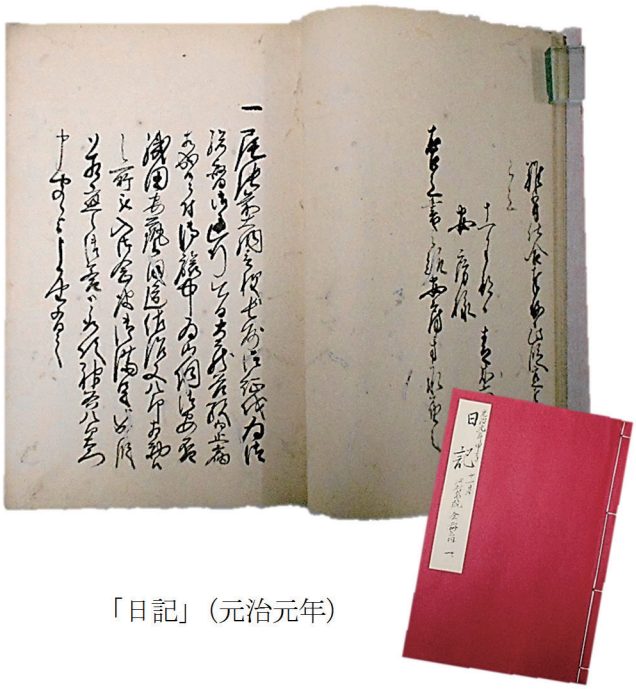
愛知県公文書館だより

目次

企画展関連資料 …… 1
令和二年度企画展 …… 2
Ｗｅｂサイトが新しくなりました …… 3
愛知県史収集資料の紹介 …… 4
歴史資料連続講座開催報告 …… 5
『愛知県史』展示コーナー …… 5
『愛知県史』の販売について …… 5
所蔵資料紹介 …… 6
インターンシップ研修生体験記 …… 6
古文書解読 …… 7
レファレンスコーナー …… 8
利用案内・編集後記 …… 8

「鹿児島征討日記」



「日記」（元治元年）

右上の資料は、元治元（一八六四）年の「日記」の一部分です。現在の兵庫県に当たる明石藩が作成したこの資料が、本館へ移管された詳しい経緯は不明ですが、「藩庁文書」の一つとして、天保九（一八三八）年から明治四（一八七一）年までを本館で所蔵しています。

元治元年、長州征討のため名古屋を出発した徳川慶勝（尾張藩十四代藩主）は、京都での軍議の後、本営となる広島へ向かう途中で明石藩領を通りました。写真は、その際の記録です。十一月三日、大蔵谷駅（現兵庫県明石市）で宿泊した一行への、明石藩の役人らの応対が入念であったとして、一行が満足していたことが報告されています。

左上の資料は、本館が所蔵している古文書・私文書のうち「湯浅氏収集新聞関連資料」の中の「鹿児島征討日記」です。明治十（一八七七）年に発行された刊行物で、西南戦争に関する記事が載っています。写真は三月四日の記事で、先に西郷軍に奪われていた政府軍の聯隊旗を、陸軍少将の野津鎮雄が敵中に飛び込んで奪い返した、と述べられています。

挿絵には、野津が西郷軍の兵士たちと戦う様子が描かれています。

令和二年度企画展「史料で読む幕末維新の一大事」

今年度の企画展は、「史料で読む幕末維新の一大事」と題して、十月一日（木）から十一月三十日（月）まで、本館の展示室で開催しました。

三十年余り続いた平成の時代が終わり、令和という新しい時代が始まりました。今から約百五十年前、元号が明治へと移り変わった頃の日本は、旧来の体制を一新する激動の時代の最中でした。

今回の企画展では、主に幕末維新期に起こった一大事を紹介しました。内容としては「桜田門外の変」「天狗党の乱」「長州征討」「戊辰戦争」「青松葉事件」「西南戦争」の六章立てとし、それぞれの出来事について展示を行いました。中には、愛知県と直接関わりのない事柄もありますが、日本史上における一大事として、主に本館で所蔵している寄贈・寄託文書により紹介しました。以下、展示した内容の一部を紹介します。

展示室の様子

本館は、主に愛知県が作成・収受した文書類を保管・保存している機関ですが、県の成立当初に旧藩から引き継いだと思われる資料もあります。

その中には、慶応四（一八六八）年一月に勃発した戊辰戦争の際、主として越後長岡（現新潟県）とその周辺で戦われた北越戦争に関する、愛知県域の諸藩の動向がわかる史料が見られます。尾張藩を始め近隣諸藩は、北信越方面へ出兵しており、東海道沿いの藩には、通行する新政府軍の兵食取計らいなどが命じられていました。また、戊辰戦争で活躍した民兵組織である草莽諸隊に関する記録もあり、愛知県も戊辰戦争に関わっていたことが分かりました。

また、公文書だけでなく、県民の方々から寄贈を受けた古文書・私文書類の中にも、戊辰戦争に関する史料があります。幕末、京都で要職に就いていた尾張藩士の大塚三右衛門家の文書には、鳥羽・伏見の戦いの後に旧幕府方の元役人が出した願書や、兵火により焼け出された住人たちからの嘆願書などが残されています。これらは、拡大したり全文をパネルにしたりして、内容を読んでいただけるように展示しました。

展示室の様子（戊辰戦争部分）

「湯浅氏収集新聞関連資料」の中には、明治初年に発行された太政官日誌や新聞など、戊辰戦争の戦況報告が載せられた活字の印刷物がありました。特に新聞は、佐幕派（旧幕府側）と官軍派（新政府側）の、それぞれの立場から発行されたものがあり、内容に違いが見受けられました。

また、幕末に尾張藩で起こった大事件として、「青松葉事件」を取り上げました。慶応四年一月、藩内における佐幕派（旧幕府側）と勤王派（新政府側）の対立の中で起こったこの事件について、処刑あるいは蟄居謹慎等を言い渡された人々の名前が、罪科とともに「名古屋藩庁文書」のひとつである「惣帳届留　天」の中に記録されていました。

なお、最終的に一四名の藩士が処刑された青松葉事件に関する史跡が、現在でも名古屋城二之丸の敷地内にあります。

今回は、愛知県の成立以前の事柄をテーマとしたことから、展示の内容を深めるため、名古屋市鶴舞中央図書館から尾張藩の記録類などを一部借用しました。

史料を「読む」展示としたことにより、館内では各資料にじっくりと見入られる来館者の姿が目立ちました。「愛知県が戊辰戦争や西南戦争という全国的にも著名な出来事と関わりを持っていたことがわかった」、「この企画展で青松葉事件のことを初めて知った」、という声をいただき、改めて今回の展示を行った意義を感じました。

企画展を御覧になった皆様が、本館の所蔵資料や愛知県の歴史に興味・関心を抱いていただけましたら幸いです。

Webサイトが新しくなりました

愛知県公文書館では、二〇二〇年三月二十七日に公文書館のWebサイトを全面リニューアルしました。

新しいWebサイトは、デザインが一新されて、より親しみやすいものに生まれ変わりました。

WebサイトのURLも新しくなりました
https://kobunshokan.pref.aichi.jp/

県民の皆様に愛知の歴史資料に親しんでいただくため、新たに「**バーチャル文書館**」を開設しました。愛知の歴史資料を「知って」、「学んで」、「楽しめる」内容となっています。

また、同年四月一日には所蔵資料検索システムも一新しました。

バーチャル文書館の内容

○ **愛知の歴史資料**

ア　県史収集資料室

県史編さん事業の過程で収集された歴史資料の一部を掲載しています。

解説文作成には、愛知県立大学日本文化学部の学生の方々に御協力をいただきました

イ　所蔵資料紹介

所蔵資料の画像を解説付きで掲載しています。

ウ　地籍図

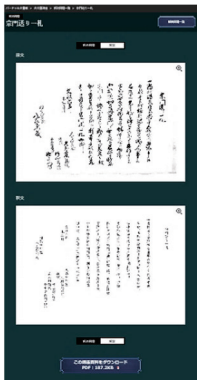
地籍図の一部をカラー画像で紹介しています。

○ **デジタル展示室**

過去の企画展の一部を御覧いただけるように掲載しています。

○ **古文書講座**

公文書館所蔵の古文書をテキストとして、解読に挑戦できます。釈文だけでなく、時代背景や各資料の解説も併せて掲載しています。



○ **愛知の歴史年表**

原始から現代までの愛知県域の動きが分かる構成にしています。

新しい所蔵資料検索システム

「愛知県公文書館所蔵資料検索システム」を、全面リニューアルしました。

新しい検索システムは、九つの資料別のデータベースから構成されており、横断検索により複数のデータベースを一括して検索することもできます。一部の資料のデジタル画像が閲覧できる機能が追加されたほか、閲覧票の印刷も可能です。

また、この検索システムは「国立公文書館デジタルアーカイブ」の横断検索の検索対象にも追加されており、全国の利用者の利便性が向上しました。

愛知県史収集資料の紹介
～徳川林政史研究所所蔵史料～

『愛知県史』の編さん事業は、平成六（一九九四）年四月に始まり、通史編一〇巻、資料編三六巻、別編一二巻を刊行して、令和二（二〇二〇）年三月に終了しました。その編さん過程において、県史編さん室が県内外の所蔵機関や個人所蔵者から、紙焼きや写真といった複製物で収集した資料は、総数で一〇〇万点を超えています。公文書館では、県史編さん室から引き継いだ収集資料のうち、整理を終えて所蔵者の許諾を得た文献資料を、順次公開していく予定です。

令和二年十二月二十三日より公開している徳川林政史研究所の所蔵史料について紹介します。

徳川林政史研究所は、尾張徳川家第十九代当主徳川義親氏が設立した公益財団法人徳川黎明会に所属する、日本で唯一の民間林業史研究機関です。全国各地から収集した江戸時代の林野関係史料、尾張藩や尾張徳川家に伝来した古文書・記録類などが多数保存されており、愛知県、特に尾張藩を研究するうえで重要な史料を多く所蔵しています。

県史編さん室が収集した徳川林政史研究所の所蔵史料の一部は、『愛知県史』資料編の中世・織豊・近世・近代の巻で翻刻掲載しています。

徳川林政史研究所収集史料は大正十二（一九二三）年に林政史研究室を開設して以来収集された古文書・記録類からなる史料群です。この中に「古案」と表題の付された写本が二九冊あり、豊臣秀吉・徳川家康の発給文書など平安から江戸時代にわたる多数の文書が書写されています。「古案　六所并八幡奉加帳」はその一つで、豊田市坂上町にある六所神社と豊川市八幡町にある八幡宮の奉加帳が収録されています。『愛知県史　資料編10　中世3』では「八幡八幡宮奉加帳写」として翻刻掲載しています。奉加帳とは、社寺の建立や修理に際して金品を募るための趣意書（勧進帳）に付けた帳面に、奉加（寄付）した金品の量および氏名を記したものです。八幡宮の奉加帳は永正十七（一五二〇）年の社殿造営に関わるもので、今橋（現豊橋市）の牧野信成をはじめ牧野一族が多額の奉加をしていること、刈谷城主水野近守・守政親子の名前があり西三河居住の人も奉加していたこと、などがわかります。

徳川林政史研究所収集史料にはほかに、犬山の材木商神戸家の記録である「永々録」、東海道の宿場である愛知郡鳴海村（現名古屋市緑区）の「鳴海村御用留」、「愛知県布達外」などがあります。

尾張徳川家文書は尾張藩主の徳川家に伝わった古文書・記録類からなる史料群です。『愛知県史　資料編21　近世7』、『同22　近世8』ではこの中の「待賓館御用留」を翻刻掲載しています。慶応四（一八六八）年一月十五日、徳川慶勝は、朝廷から尾張藩内の佐幕派一掃と、周辺諸国に対する勤王誘引を命じられました。勤王誘引とは、周辺諸国（伊勢・三河・遠江・駿河・美濃・信濃・上野・甲斐）の大名・旗本・寺社を朝廷側に服属させる活動をいいます。尾張藩はこれらの国々の大名・旗本からの使者の応接を行う施設として、藩校明倫堂を臨時に「待賓館」としました。ここでの応接や費用等の詳細な記録が「待賓館御用留」です。一月に発足した待賓館の運営規則や勤王誘引懸りの姓名、勤王誘引活動の終了した十二月段階での費用の総勘定などが記されています。また、三河の諸領主は尾張藩や朝廷への勤王の挨拶を病気や在府中などを理由に家臣が名代で行っている場合が多いこと、美濃大垣新田藩（戸田家）に朝廷より信州・北越への賊徒討伐命令が出たこと、などがわかります。

尾張徳川家文書にはほかに、拝借金や調達金の記録である「御借財高寄上根帳」、密猟が発覚した際の記録である「背殺生留」、天保七（一八三六）年の凶作に対する救恤（じゅつ）の記録である「御側より窮民江御救筋一巻」などがあります。

徳川林政史研究所のＷｅｂサイトに掲載されている史料群のうち、県史編さん事業（の過程）で収集した史料群を公文書館で公開しています。公開史料は公文書館Ｗｅｂサイトの所蔵資料検索システムで検索でき、複製物（紙焼き・画像）は公文書館内で閲覧できます。以前より公開している旧名古屋税務監督局所蔵史料とともに、ぜひ御利用ください。

徳川林政史研究所所蔵史料の紙焼きが入ったファイル

「歴史資料連続講座」開催報告

愛知県立大学日本文化学部との共催により、「２０２０年度　歴史資料連続講座」を、愛知県立大学サテライトキャンパス（ウインクあいち一五階）で開催しました。二日間で六四人の方に御参加いただきました。

参加者の皆様には、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用、手指の消毒、検温の実施に御協力いただきました。

各講座の内容は以下のとおりです。

講座①　戦後の愛知県の歩み
（二〇二〇年十月十一日　日曜日）

・久保　正明（愛知学院大学講師）
「桑原県政と愛知県地方計画」
・田中　彰（京都大学大学院教授）
「戦後愛知経済・産業と名古屋港」
・吉川　卓治（名古屋大学教授）
「戦後愛知の青年と教育」

『愛知県史　通史編９　現代』を執筆された三名の講師により、戦後の愛知県の政治・経済・教育についての講義が行われました。

講座②　愛知の災害と人々の暮らし
（二〇二〇年十月十八日　日曜日）

・鬼頭　剛（愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員）
「地層からよみとる災害」
・梅本　博志（元愛知県埋蔵文化財調査センター所長）
「城と川と城下町～殿様と町人たちの洪水対策～」

『愛知県史　通史編10　年表・索引』を執筆された二名の講師により、愛知県の自然災害についての講義が行われました。

愛知県公文書館では、今後も県民の皆様に地域の歴史と文化に興味を持っていただくため、歴史資料の普及・啓発事業を開催してまいります。

二日目の講座の様子

『愛知県史』展示コーナー

公文書館内の展示スペースを使って、二〇二〇年三月に刊行の『通史編９　現代』『通史編10　年表・索引』の二巻の一部を紹介しています。

概要は次のとおりです。

『通史編９　現代』

「愛知県地方計画」と「ＹＳ―11」について紹介しています。

「愛知県地方計画」は当時の桑原幹根県知事が構想した地方計画です。計画の核として中部経済圏の発展構想を掲げ、昭和三十四（一九五九）年に中京工業地帯に東海製鐵㈱（現日本製鐵㈱）の立地が実現しました。

「ＹＳ―11」は新三菱重工業小牧工場（現三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所小牧南工場）で作られた当時の新型飛行機で、昭和三十九年東京オリンピックの聖火を国内輸送するという大役を果たしました。

『通史編10　年表・索引』

年表と伊勢湾台風について紹介しています。

年表の紹介では全国的な出来事と愛知県との連動が一目でわかる「読める年表」の一例として、源平の騒乱の時期の出来事を取り上げています。

伊勢湾台風の紹介では、被害の概要と当時の浸水した駅の様子を写真で展示しています。

『愛知県史』の販売について

二〇二〇年四月から、『愛知県史』『愛知県史研究』『愛知県史民俗調査報告書』は、愛知県公文書館で販売しています。

【直接購入】

愛知県公文書館事務室（愛知県自治センター八階）へお越しください。

【配送による購入】

郵便はがき、ファックス、Ｅメールのいずれかの方法で、

・郵便番号
・住所
・氏名（フリガナ）
・電話番号
・購入希望の書名・冊数
・配送購入希望

を明記し、お申し込みください。

※代金前納、送料は購入者負担です。

なお、愛知県公文書館のＷｅｂページで『愛知県史』等の内容・購入方法等について御案内しています。

※完売した巻もありますので、販売状況はＷｅｂページで御確認いただくか、Ｅメール・電話で公文書館までお問い合わせください。

所蔵資料紹介 ～愛知県庁文書～

公文書館では、愛知県の歴史の具体的な状況が分かるさまざまな資料を所蔵しています。このうち、「愛知県庁文書」は、明治維新前後の本県の成立期から昭和初期ごろにかけて作成された文書です。本館では原資料や複製本を多数所蔵し、利用に供しています。

「愛知県庁文書」は、県庁と県内郡役所・町村役場、あるいは県庁と関係省庁との間でやりとりされた文書が多くを占め、土地・租税関係、土木、兵事、学事、商工などに関する各種の調査、統計結果といった、当時の県行政・地域の実情を示す資料が多く含まれています。

写真手前の資料は、明治十二(一八七九)年作成の「橋梁坪数調」です。県内各地の橋梁に関して、各郡から詳細な調査報告が寄せられ、それぞれの橋梁の長さ、幅、種類等が記されています。

主なものを記すと、

・納屋橋　橋長一二間、幅三間二尺
・尾頭橋　橋長一七間三尺、幅三間
・枇杷島橋　橋長六五間、幅四間
・矢作橋　橋長一五〇間、幅三間

などの記載があり、掲載された橋の総数は二三〇〇以上を数えます。お住まいの近くの橋も載っているかもしれません。

なお、掲載された中で最も長大な橋は、葉栗郡北方村字宝江(現一宮市北方町)にあった、長さ二三八間の板橋でした。『木曽川町史』によれば、この橋は宝橋と呼ばれ、明治十一年十月に明治天皇の行幸に合わせて建設された船橋(川面に船を並べ、その上に橋を渡したもの)でした。同十四年五月に洪水のため流失し、本館が所蔵する同十七年に作成の「地籍図」には描かれていません。

「愛知県庁文書」
(原本：国文学研究資料館所蔵)

本館の閲覧室で、こうした資料を御覧になれます。簿冊名や収録された文書の内容ごとに付した件名は、パソコンで検索できます。さまざまな調査に、「愛知県庁文書」を積極的に御利用ください。

インターンシップ 研修生体験記

令和二年八月三十一日から九月十一日まで、四名の大学生がインターンシップ研修を行いました。マスクの着用など新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、公文書の修復や企画展の準備、県史収集資料の整理作業など、公文書館のさまざまな業務の体験をしました。

研修生の感想を紹介します。

「公文書館では、行政文書や貴重な資料を整理・保管し、利用者の方々に滞りなく提供するための多くの業務があることを知った。特に修復作業は、重要な公文書を後世に残すというやりがいのある作業だった。今回の研修を通して、仕事に対する責任感を意識し、体感することができたと思う。」

修復作業の様子です

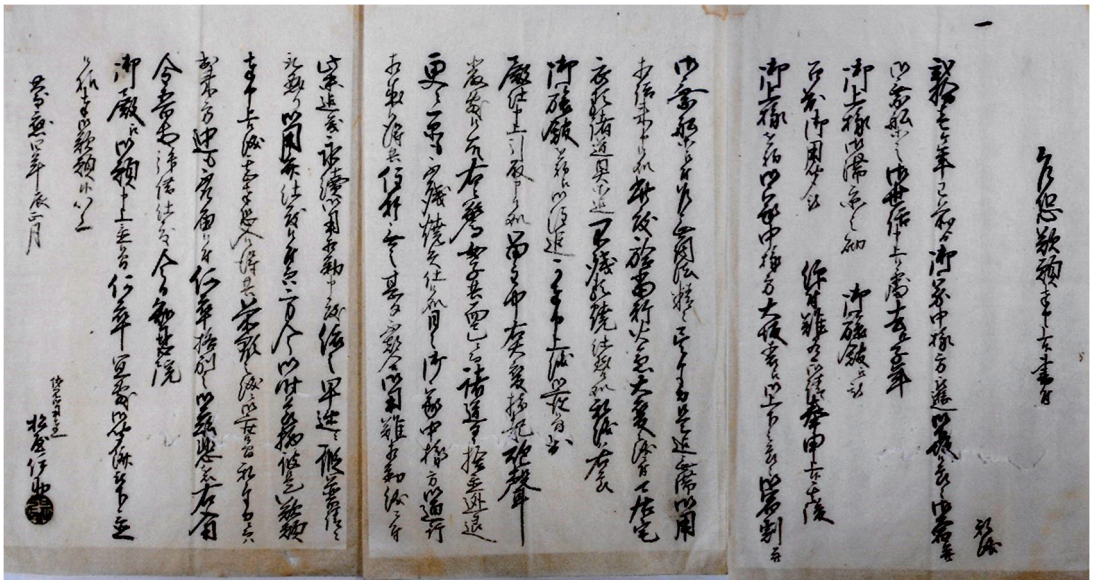
「カウンター業務では、地籍図を書庫から出す業務に携わった。愛知県公文書館は、所蔵する地籍図が多く、愛知県の昔の様子を知ることができる施設なので、一般客としても利用したいと思った。」

「愛知県史編さんの過程で収集された資料の整理業務を行った。近代以降の文書には酸性紙が多く、経年変化による劣化を防ぐための作業が印象に残った。歴史資料の原本に触れ、後世に残すという、意義のある、貴重な経験をすることができた。」

「公文書館における多くの業務の中でも、文書の整理・点検は、利用者に正確で迅速な対応をするために欠かせない業務であると感じた。多くの作業を手作業で行っているため、効率よくこなすためにはチームプレーが大切だと感じた。実際に業務体験をさせていただいた二週間を通して、公文書館の意義をより実感するようになったと思う。」

カウンター業務も体験しました

古文書解読
「鳥羽・伏見の戦いと尾張藩」



一

午レ恐嘆願奉二申上一候書付

私儀

弐拾壱ヶ年已前ゟ御家中様方被レ遊二御下坂一候節々御宿并
御乗船等之御世話申上候処去ル子年
御上様御滞京之砌　御旅館江被二
召出一御用聞被二　仰付一難レ有御請奉二申上一候其後
御上様を初御家中様方大坂表江御上下之節々御宿割并
御乗船等江付乍二無調法一精々尽二気力一是迄無レ滞御用
相詰来申候処此度於二当所一火急大変之儀二付居宅
衣類諸道具等迄不レ残類焼仕然ル処私儀ハ右節
御旅館を初江御注進可レ奉二申上一儀御座候間出
殿仕申上引取申候処留主中右大変指起砲声
厳敷候故右二驚女子共而已二而諸道具捨置逃退
更二一品も不レ残焼失仕候処日々御家中様方御通行
相成候得共住軒無レ之甚夕不都合御用難二相勤一儀二付
此末迄茂永続御用相勤申度依レ之早速二仮普請二
取懸り御用弁仕度候付而ハ方今御時節柄彼是嘆願
奉二申上一候儀甚奉二恐入一候得共前顕之儀二御座候間私気力二而ハ
出来方迚も不二行届一候付何卒格別之御慈悲を以右入用
金五百両拝借仕度今日知恩院
御殿江御願申上置候間何卒宜敷御聞済被二下置一
候様奉二御嘆願一候以上

慶応四年辰正月　　伏見御用達
松屋伊助（印）

この史料は、尾張藩士大塚三右衛門家の文書の一つであり、慶応四（一八六八）年一月に伏見（現京都市伏見区）の松屋伊助から大塚亀治郎に提出されたものです。

大塚亀治郎は、尾張藩十四代藩主徳川慶勝の側用人であった田宮如雲の甥です。

田宮如雲は慶応三年十二月九日の王政復古直後、京都市中取締参与とともに伏見取締を命じられており、亀治郎は同月二十日に京都市中取締懸参与助役頭取を命じられ、伏見の尾張藩屋敷内に置かれた市中取締参与役所に勤務していました。

幕末の伏見の町は京都と大坂を結ぶ水上交通の要衝であり、松屋も尾張藩御用達の船宿を営んでいたと思われます。

鳥羽・伏見の戦いの直前、伏見の南部にある旧伏見奉行所には旧幕府軍が、そのすぐ北側の御香宮神社には薩摩軍が布陣していました。

慶応四年一月三日夕刻に始まった鳥羽・伏見の戦いにより、旧伏見奉行所を始め船宿の多い伏見の町の南部は戦火で多くが焼失してしまいました。

この松屋伊助の嘆願書では、松屋は尾張藩のために二十一年前から宿舎や大坂への船便の御用を務めてきたこと、戦闘勃発時には伊助は藩邸などへ報告に行っており、その留守の間に松屋は衣類や家財道具まで含めて全焼してしまったことなどが述べられ、このままでは御用を務められないので仮普請のため五百両を拝借したい旨が嘆願されています。

この史料から、幕末維新の鳥羽・伏見の戦いに尾張藩が意外な関わりがあったことがうかがえ、とても興味深い記事であると思われます。

レファレンスコーナー

Q. 新型コロナウイルス感染拡大は約百年前のスペイン風邪流行と比較されることがある。スペイン風邪流行に関する資料はあるか。

A. 『愛知県公報』、「愛知県庁文書」及び当時の新聞等に記載があります。

スペイン風邪とは、全世界で流行したインフルエンザです。日本では流行性感冒と呼ばれ、大正七～九（一九一八～二〇）年にかけて三度流行し、県内で約九五〇〇人の死者が出ました。（『愛知県史 通史編７ 近代２』）

大正七年と十年の『愛知県公報』号外には、呼吸保護器（マスク）の着用・うがい・換気・人混みには行かない等の予防の大切さが説かれ、マスクの作り方も説明されています。

また、大正九年作成の「徴兵関係資料」には、名古屋の陸軍第三師団から「入営時の新兵や面会の家族は感冒予防のため口覆（マスク）を着けるように」と丹羽郡長に出した通達文があります。

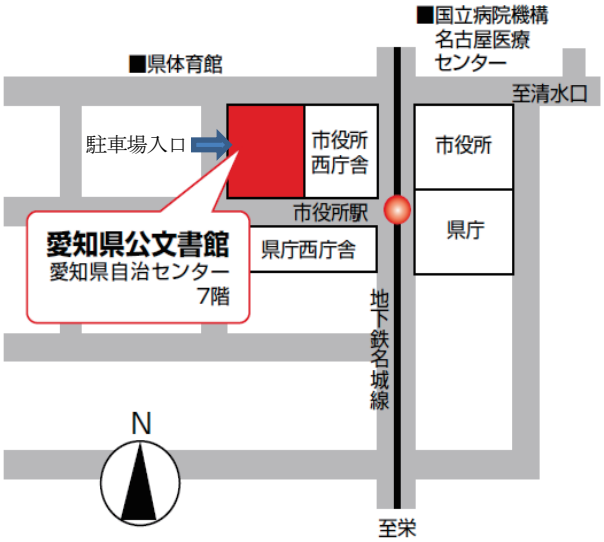
中日新聞の前身である『新愛知』には、大正八年十月二十日付で額田郡の小学校の休校が報じられて以降、ほぼ連日、愛知及び全国の感染状況が報道されています。

これらの資料は複製本やマイクロフィルム等により閲覧できます。

利　用　案　内

◆開館時間　午前９時～午後５時
（閲覧請求は午後４時 30 分まで）

◆休 館 日　土曜日・日曜日・祝休日
年末年始（12 月 28 日～１月４日）
整理期間（春季 10 日以内）



利　用　方　法

1　資料の閲覧は無料です。
2　閲覧までに日数をいただく資料があります。
3　所蔵資料の複写にも応じています。
（一部複写できない資料があります。）
4　資料の貸出しは行っておりません。
5　館内での電話・飲食はお控えください。

所在地　〒460-8501
名古屋市中区三の丸２-３-２
愛知県自治センター７階
電　話　052-954-6025
ＦＡＸ　052-954-6902
E-mail　kobunshokan@pref.aichi.lg.jp
ＵＲＬ　https://kobunshokan.pref.aichi.jp/

編集後記

▽ 昨年度末に、『愛知県史』全五十八巻の刊行が完結しました。それに伴い、『愛知県史』の販売、「歴史資料連続講座」等の業務は、すべて公文書館に引き継がれました。

▽ 今年度の企画展は、本館の所蔵資料を使って、愛知県に関わる幕末・維新期の事件について扱いました。テレビや新聞にも取り上げられ、多くの方々に関心を持って御覧いただきました。御来館の皆さまには、感染症予防措置に御協力をいただき、ありがとうございました。

▽ 公文書館も、コロナウイルスの影響を大きく受けた一年になりました。年度初めには開館できない時期もあり、秋に予定していた「歴史資料講演会」は残念ながら中止を余儀なくされました。来年度は無事開催できることを願っています。

▽ 公文書館が皆さまの期待に応えられる機関であり続けるため、職員一同引き続き努めてまいります。

愛知県公文書館だより 第二十五号
令和三（二〇二一）年一月二十九日
編集発行　愛知県公文書館